平成２９年度第２回文京区アカデミー推進本部　次第

（日時）平成 29 年８月 22 日（火）
文京区地域福祉推進本部終了後
（会場）庁議室

１　開　会

２　議　事
（１）「平成 29 年度　文京区アカデミー推進計画進捗状況の評価について」（報告）

３　閉　会

【配付資料】
資料１「平成 29 年度　文京区アカデミー推進計画進捗状況の評価について」（報告）

資料　1

平成 29 年度　文京区アカデミー推進計画進捗状況の評価について

平成 28 年 3 月に策定した「文京区アカデミー推進計画」は、平成 29 年度より、毎年、前年度に実施した事業の実施状況について点検・評価を行うこととしている。

具体的な点検・評価の方法は、年度ごとに取り組みの進捗状況を担当課が行う自己評価について、文京区アカデミー推進協議会（以下「協議会」という。）において、平成 28 年度の実施事業についての評価を行った。

第１回協議会では、まず評価方法について検討し、個別の事業について数値等による評価を行うものではなく、各委員からの意見・評言を協議会として取りまとめることにより評価を行うこととした。

議論を進めるにあたり、便宜的に３つの分科会に分けて検討を進め、平成 28 年度の実績について、事業の進捗状況や事業化への課題等を確認しながら、ワークショップ方式により評価作業を進めた。

第２回協議会では、各委員から出された意見・要望等を整理し、協議会の評価として取りまとめ、全体について、協議会での審議を踏まえた学識経験者の意見を付記することとして、平成 29 年度における文京区アカデミー推進計画の進捗状況評価とした。

この評価は、担当課において、次年度に向けた既存事業の見直しや新規事業の検討など、今後の事業運営の参考とする。

平成 29 年度　文京区アカデミー推進協議会経過

会議名	開催日	主な検討内容
第１回アカデミー推進協議会	平成 29 年 5 月 31 日	評価方法及び評価スケジュール
第１回分科会（スポーツ・文化芸術分野）	平成 29 年 6 月 15 日	ワークショップ方式による議論
第１回分科会（観光・国際交流分野）	平成 29 年 6 月 15 日	ワークショップ方式による議論
第１回分科会（生涯学習分野）	平成 29 年 6 月 16 日	ワークショップ方式による議論
第２回分科会（スポーツ・文化芸術分野）	平成 29 年 6 月 21 日	ワークショップ方式による議論
第２回分科会（観光・国際交流分野）	平成 29 年 6 月 21 日	ワークショップ方式による議論
第２回分科会（生涯学習分野）	平成 29 年 6 月 22 日	ワークショップ方式による議論
第２回アカデミー推進協議会	平成 29 年 7 月 19 日	協議会としての評価について

１　生涯学習

１　いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

〔取組状況の評価〕

生涯学習の分野別目標に沿って、文京区及び指定管理者（公財）文京アカデミーを通じて多彩な事業を行い、内容も充実している。

大学との連携によるプロデュース特別講座や付属図書館の開放等、文京区の地域特性を生かした事業がある。

文京アカデミア講座などは、多種多様な講座を提供し充実している。

図書館サービスも充実している。

〔課題と今後の対応・方向〕

講座・講習を受講した区民の、「生涯学習」についてのさらなる期待に応えていくことについて、発展型の学習事業を行政自身が提供するのか、あるいは大学等との連携によって行うのかという点を含め、検討する必要がある。ワークショップ方式の講座提供など、新しい「生涯学習」の形態や学習機会を開発することが求められている。

「広報」の手段としては年齢層・対象によって区報やＳＮＳを使い情報提供に尽力してほしい。

区の行政情報だけではなく、区内民間企業のホールや大学での講座・受講可能な講義などの情報収集・提供も生涯学習相談の場で出来るようになると良い。

講座修了者による自主的なグループ化が難しくなっているため、工夫が必要である。

２　一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実

〔取組状況の評価〕

区民プロデュース講座や生涯学習支援者[1]の企画する講座は、区民の興味やニーズを反映しており評価している。

アカデミアサポーターの支援のおかげで、年間相当数の講座の運営が可能となっていることについて評価している。

---

[1] 生涯学習支援者とは、「文の京生涯学習司」「文の京地域文化インタープリター」「文京アカデミアサポーター」のことを総称していう。（「文京区アカデミー推進計画（平成 28 年 3 月）」P132 参照）

〔課題と今後の対応・方向〕

人材活用という面では、区の事業において活動している人もいれば、地域において活動している人もいる現状がよくわかった。今後は、例えば生涯学習フェアの運営のあり方も含めて更に充実するように進めていただきたい。

区民プロデュース講座については、審査の公正性を担保しながら、良質な講座の提供に努めてほしい。

区民の主体的な学習活動として社会教育関係団体のもつ意味は大きいものの、５年ごとのチェックでは実態把握が十分とは言えない。

学習成果の発表やボランティアとしての活用等の場を充実させるとともに、これらが循環的に発展する仕組みを考える必要がある。

３　学びの継続を通じたまちづくり

〔取組状況の評価〕

アカデミー推進課、指定管理者（公財）文京アカデミーの事業以外にも各課で取り組んでいる状況が良く現れている。

「文京学」の講座を評価している。また、文京お届け講座についても多分野にわたり充実した提供がなされている。

〔課題と今後の対応・方向〕

講座・講習を通じて学んだ区民が、地域活動や行政との協働の活動の場に参加しやすい土壌を提供することを検討してほしい。また、学習の継続という意味でも、地域アカデミー施設で提供される事業も充実してほしい。とくに、地域特性に応じた講座などが求められている。

地域で学べるテーマの「文京学」などの更なる充実を期待している。

【生涯学習分野評価の総括】

文京区アカデミー推進協議会委員（学識経験者）
生涯学習分野担当　　田中　雅文

学習機会の提供については、文京アカデミア講座を中心として多様な講座を提供するとともに、大学等との連携による各種の学習支援も充実しており、区民の学習環境は整っている。今後は、基礎的なレベルを超えた発展型の学習機会の生成、ワークショップ等の新しい形態の学習機会の提供、若年層に対する広報の工夫、講座修了後の自主グループ化の促進など、学習活動の広がりと深まりを促す方策の検討が求められる。

次に、学習成果の発表・活用については、区民参画型の特色ある事業が行われており、高く評価できる。とくに、区民プロデュース講座やインタープリター企画講座は、区民自身が企画・提供するものであり、区民ニーズに的確に対応する特色ある事業となっている。その他、生涯学習司による学習相談、アカデミアサポーターによる講座運営の支援など、区民が学習成果を活かす仕組みが整っている。今後は、自主的な学習活動として重要性の高い社会教育関係団体の確認の頻度をあげること、学習成果の発表とボランティア活動による活用をつなげることにより、学習活動と発表・活用の循環的な発展を促すことが期待される。

最後に、学びの継続を通じたまちづくりについては、一般行政の各課が提供する学習事業や「文京学」講座など、地域の課題を考えるための学習機会が充実している。今後は、そのような学習を通したコミュニティや区民ネットワークの形成、さらには地域課題を解決するための区民活動が盛り上がってくることが期待される。また、地域アカデミー施設では、当該地域の資源活用を含め、地域特性を活かした学習事業が一層充実することが期待される。

２　スポーツ

１　スポーツを身近に感じる機会の拡充

〔取組状況の評価〕

東京ドームや講道館が区内にあることの地の利を活かし、オリンピック・パラリンピック競技大会やサッカー・ワールドカップ等のパブリックビューイング等を実施し、スポーツに触れ、スポーツがおもしろいなと思うきっかけ作りを十分に行っている。

読売巨人軍や日本サッカー協会等との協定に基づき、プロスポーツの指導者等から区民が教わる機会も用意されている。

〔課題と今後の対応・方向〕

スポーツ団体、区内企業との協定を、さらに増やすとよい。

２　いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進

〔取組状況の評価〕

多種多様なメニューのスポーツ教室や大会等を実施している。また、東京 2020 大会に向けて、障害者スポーツの紹介や実体験できる事業も行われ、障害者スポーツの普及振興に努めていることも評価できる。

〔課題と今後の対応・方向〕

多種多様なスポーツ事業はあるが、新規にスポーツを始めたい人にはどこで何がやられているかがわかりにくい。そのために、区内スポーツが一堂に会する機会や、スポーツフェスや他のイベントなど催しの際、スポーツ紹介のブースや相談窓口を設けることなどが望まれている。

３　スポーツ活動を支える環境の整備

〔取組状況の評価〕

区内の小中学校を利用した交流ひろばなどスポーツを気軽にすることができる環境の整備を行っている。

〔課題と今後の対応・方向〕

既に区内施設のキャパシティは限界にきている。区内大学施設を活用することで事業の拡大を検討するべきである。

また、文京区ならではの「坂」を活用し、観光とスポーツが結びつくような新規スポーツ事業を検討してほしい。

４　スポーツを通した仲間づくりと交流

〔取組状況の評価〕

スポーツ大会で大学の部活と交流するなど、大学の多い文京区の強みを活かすことができている。

また、自治体交流事業や障害者向けの４区合同レクリエーション大会等により、区外との交流も定常的に行われている。

〔課題と今後の対応・方向〕

東京大学や順天堂大学など区内大学との連携協力をしているが、他大学とも組織的で持続的な連携を図り、スポーツ事業の発展に努めてほしい。

【スポーツ分野評価の総括】

文京区アカデミー推進協議会会長（学識経験者）
スポーツ分野担当　　水越　伸

スポーツは一定の場所や施設、指導者などの人材、チームや試合などの組織やイベント等があって初めて成り立つ。文京区では長年にわたって培ってきたそれらの条件を、平成 28 年度も十分に活かして各種事業を進めていたことは評価できる。

一方、初心者や新たに区民となった人々がスポーツに取り組もうとする際に情報を入手できるメディアや窓口はより充実させる必要がある。

また、場所や施設、指導者などの面ですでに区内のキャパシティは限界まできており、文京区に数多く存在する大学との連携をより一層進める必要がある。

３　文化芸術

１　だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

〔取組状況の評価〕

文化祭や様々な大会・発表会を開催し区民の文化芸術に関する成果発表の場となっている。

事業提携楽団によるクラシックコンサート・親子向けコンサートや区立小中学校への出前コンサート等は、幅広い年齢層を対象として音楽に親しむ機会をつくっている。さらに全国の自治体と協働（共催）による文化交流も図っており、文化芸術に親しむ機会は充実している。

〔課題と今後の対応・方向〕

多種多様なイベントがあるが、その情報提供のされ方は、すでに参加したことがある人以外にとってわかりにくい。チラシなど古典的なメディアも重要だが、各種バラバラに配布されるだけでは従来通りのファンにしか届かない。スマートフォンに対応したウェブの充実など、時代状況に応じた情報環境の構築が急務である。

２　文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

〔取組状況の評価〕

文化芸術を鑑賞するだけではなく、自らが楽器の演奏や役を演じるなど、作品の発表等の場がある。また、事業提携楽団に活動支援を行っていることから、区立小中学生に楽団員の演奏の指導が直接受けられるなどは、人材の育成に役立っている。

〔課題と今後の対応・方向〕

若い人の鑑賞・創作などの文化芸術への参加が少ない。次世代の観客層の育成や、若手芸術家の発表の場を提供するなどの検討が必要である。

また、区内大学や民間企業等との連携や、その所有施設の活用などをさらに推進していく必要がある。

以上のことから、新たな時代状況に応じた情報提供の仕組みづくりが必要である。

３　「文（ふみ）の京（みやこ）」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

〔取組状況の評価〕

養成講座を受けた文京ふるさと歴史館友の会会員が、ボランティアとして歴史館の展示解説や、友の会の「まち案内」ボランティアガイドが「史跡めぐり」事業に参画するなど、文化資源を伝える人材育成及び活動の支援、さらには内外に発信する取り組みがなされている。

文京ミューズネットのマップはたいへんわかりやすい。

区民を交えた名所再発見のワークショップ方式を新規事業として実施するなど、新規事業開拓の努力の跡が見られる。

〔課題と今後の対応・方向〕

観光地や名所・旧跡をパターン化、固定化してしまわないような工夫が必要である。

文京区には、時代ごとに様々な歴史があり、事業を通じて有機的に取り上げられていくとよい。

区内の文化資源の再発見に向けて、さらなる区民参加型の事業を工夫していただきたい。区内に多数存在する「坂」を活用し、スポーツや観光などと連携した新たな事業を興すことも考えられる。

文京ミューズマップなどを活用した事業や割引制度なども検討していただきたい。

【文化芸術分野評価の総括】

文京区アカデミー推進協議会会長（学識経験者）
文化芸術分野担当　　水越　伸

文京区には近代日本の始まり以来の文化芸術の歴史があり、それらを生かした多種多様なイベント、区民参加型の活動がなされており、平成 28 年度も充実した内容だったといえる。

ただし、広報や情報提供のしかたが旧態依然としており、誰にでもわかりやすく、興味の幅を拡げられるようなウェブサイトや情報提供サービスの充実が急務である。

また、文京区の文化芸術として取り上げられる要素がパターン化、固定化しがちであり、必ずしも区民の生活に根ざしたイベントや活動となっていない場合がある。区民参加型で新たな文京区の文化芸術を掘り起こす、あるいは生み出すための新規事業を充実させる必要がある。

４　観光

１　観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出

〔取組状況の評価〕

文京シビックセンター展望ラウンジの観光拠点化事業は、新たな魅力を創出したことで、来場者も通常時より 50％増加し、観光資源を区内外に発信することができている。また、サブカルチャーと連携した新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業[2]では、今までに区内に訪れたことがない新しい観光客が数多く来訪したことを評価する。

他にも、食の文京ブランド 100 選、観光ガイド事業など、様々なジャンルの事業を展開していることを評価する。

〔課題と今後の対応・方向〕

観光資源のさらなる魅力創出に向けて、区の特性を活かした体験型ツアーの実施や近隣自治体との連携の強化を進めていくことが望まれる。

また、様々な事業が実施されているが、方向性及びターゲットを明確にしたうえで、重複する事業や時代に即していない事業を整理するなど、施策全体のボリュームを見直すことも進めてほしい。

２　情報の収集・活用による来訪の促進

〔取組状況の評価〕

情報発信については、観光協会ホームページのリニューアルやＳＮＳによる周知が図られ、ニーズに即している。

また、文京区とゆかりのある自治体との交流事業の実施は、相乗効果が見込まれ、一定の成果をあげている点を評価する。

〔課題と今後の対応・方向〕

スマートフォンの普及により、訪れる人が自ら情報を収集・発信し、その分野に興味がある人たちに情報提供・拡散をする環境が整ってきている。今後は若い世代のニーズの把握に努めたうえで、興味・関心を惹くような事業を展開していく必要がある。

---

[2]「新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業」は平成 28 年度の事業名。新江戸川公園は、平成 29 年 3 月 18 日より名称を肥後細川庭園としている。

３　持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり

〔取組状況の評価〕

案内標識や区有施設、コミュニティバス「Ｂーぐる」などにおける多言語表記・多言語対応の取組みが進んだことで、来訪者の急増が予想される訪日外国人へのホスピタリティの醸成に貢献している点を評価する。

〔課題と今後の対応・方向〕

東京 2020 大会を見据えて、観光まちづくりの方向性を明確にさせて、訪日外国人だけでなく、区外から訪れる様々な来訪者への対応を一層充実させていくことが必要である。

【観光分野評価の総括】

文京区アカデミー推進協議会副会長（学識経験者）
観光分野担当　　久松　佳彰

観光分野は岐路に立っているように思われる。「区民の観光」に対するサービス提供・支援を超えて、区民以外の方、とくに外国人による観光に対するサービス提供・支援という観点から、スピード感をもって各事業を点検する必要があるように思われた。また、情報発信についても区報を重視する従来からの伝統的な発信方法を超えて、SNS 等の新しい情報発信を存分に活用することが求められるように思われる。

この点から、「新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業[3]」など興味深い先進的な事例が見られたことは喜ばしい。今後はスクラップアンドビルドの精神で、新しい事業を行う代わりに、相対的に効果の低いと思われる事業は積極的に他の事業と統合ができないか模索したほうがよいのではないかと思われた。例えば、「観光ボランティア」と「英語観光ボランティア」は一元化することも考えてもよいのではないだろうか。

[3] 脚注 2 と同様。「新江戸川公園周辺地域の魅力創出事業」は平成 28 年度の事業名。新江戸川公園は、平成 29 年 3 月 18 日より名称を肥後細川庭園としている。

５　国際交流

１　国際理解を育む機会づくり

〔取組状況の評価〕

姉妹都市等交流事業や国際交流フェスタなどの事業の参加者に対して、国際理解の推進が図られていることを評価する。また、ホームステイ交換事業やカイザースラウテルン市長杯少年サッカー大会などの事業を通じて、小・中学生年代から国際交流の機会を提供していることを評価する。

〔課題と今後の対応・方向〕

姉妹都市等交流事業の成果を、事業に参加した方のみならず、区内全域に浸透させていくことが必要であるため、その仕組みづくりや情報発信の強化に努めてほしい。また、英語圏との交流について、区民ニーズの把握や効果の検証に努めたうえで、慎重に検討していくことも重要である。

さらには、日本人が外国人に対して日本の文化などを正しく伝えることできるよう、日本の文化に関する知識を習得させ、発信していく人材を育てることが必要である。

２　外国人が快適に過ごせる環境づくり

〔取組状況の評価〕

外国語版の観光リーフレットや英語観光ボランティアなどは好評であり、訪日外国人観光客への配慮がされていることを評価する。

〔課題と今後の対応・方向〕

五大まつりなどのイベントには、多くの訪日外国人観光客が訪れるため、学生や社会人ボランティアの活用を促進し、通訳サポート等を充実させる必要がある。また、英語観光ボランティアについては、日本語観光ボランティアとの交流を強めることで、内容の充実を図るとともに、スクラップアンドビルドの観点を考慮することも重要である。

在日外国人の国籍内訳は変化しており、英・中・韓以外の言語への対応も検討してほしい。

【国際交流分野評価の総括】

文京区アカデミー推進協議会副会長（学識経験者）
国際交流分野担当　　久松　佳彰

現状において、アカデミー推進課内の国際交流担当と観光担当の業務については、もう少し工夫をした住み分けが必要であると思われる。一例として、国際交流担当は、区民および昼間区民へのサービスに焦点をあてることとして、具体的には姉妹都市との交流の重層化、教育との連携、国際交流フェスタなどのイベントなどを行い、観光担当は、区主催のイベントへの外国人来場者への対応など観光関連の催事を担当した方が住み分けとしては良いと思われる。

また、外国人の構成が今後はベトナムなど非漢字圏に傾いていくことが予想されるので、これに対する対応を準備していくことが望ましいとの意見が議論で出され、至極もっともであると思われた。

横断的施策

〔取組状況の評価〕

これまでの区報やホームページをはじめとする区の基本的な広報媒体に加え、ＳＮＳによる情報提供が増えてきている。

また、生涯学習支援者やスポーツボランティア、観光ボランティアガイド等、区民との協働が進んでいることは評価している。

東京 2020 大会に向けた取組としては、姉妹都市であるカイザースラウテルン市との関係をきっかけとして、ドイツのホストタウンとなり、大会を契機とした国際交流の取組が進められていること、また、様々な機会を捉えてパラリンピック競技の紹介を行い、障害者に対する理解が進んでいることは評価している。

〔課題と今後の対応・方向〕

新たなメディア環境に即した情報提供、メディア活用に関して抜本的な対策が急務である。過去数回の協議会でも同様の提言をしてきたが、重ねて要請したい。なお、情報発信だけでなく、区内の様々なニーズやシーズを探り、施策に反映できるよう情報の収集・編集にも注力する必要がある。

区民との協働については、東京 2020 大会を契機に社会的な必要性が高まってきていることから、引き続き人材育成に務める必要がある。特に区内 19 の大学との地域連携の組織的展開が十分になされていないこと、大学の研究者・学生との連携が本格的に展開していないこともまた大きな問題であり、過去の提言同様、これらの改善と新たな展開方策の実現を重ねて要請したい。

【総　評】

文京区アカデミー推進協議会会長（学識経験者）
水越　伸

平成 28 年度も、文京区の諸特性を生かした多種多様なイベント・事業がおこなわれており、全般的には評価できる。東京 2020 大会に向けて様々な活動がさらに充実していくことを期待している。同時に、2020 年以降の社会状況を見越した腰の据わった事業展開と、その改革の実現が望まれる。

とくに広報・情報コミュニケーションについては課題が大きい。スマートフォンの普及、あらゆる事物がインターネットで接続される状況（IoT）の現実化等を踏まえれば、従来のようなチラシと葉書・電話に頼った広報や区民とのコミュニケーションのあり方を尊重しつつも、抜本的な改革が必要である。より多くの区民にイベントに参加してもらい、住民参加型で事業を展開する等、アカデミー推進計画の精神を実現するためには、この点が不可欠だということを強調しておきたい。

すでに各領域におけるイベントや活動自体は十分に充実している。今後は、それらを区民に結びつけるため、伝達手段の充実を図っていただきたい。